

授業科目	北九州の技と文化				実務家教員担当科目	-	
単位	1.	履修	選択	開講年次	3	開講時期	前期
担当教員	林 裕二						
授業概要	<p>北九州には、長年、ものづくりに携わり、優れた技術・技能をもった「匠」「達人」がいて、「企業」があります。タイムパフォーマンス、利便性が追求される現代では、地域で育まれてきた技や伝統文化に出会い、接する機会も少なくなってきました。本講では、達人たちの生き方や仕事に対する向き合い方、企業の歴史、今後の展開や方向性を学び、これからの人生への礎としてほしいと思います。この授業では、北九州の文化圏でその技や文化を継承し、発展させてこられた外部講師の方々の講義のほか、体験を通して、地域に伝承される技やその背景の文化の一端を知り、考えます。ディスカッション、レポート、発表（口頭、プレゼンテーション）、レポート外の提出物、その他の活動で理解を深化させて、提案ができるようになる活動を行います。PPT（オンライン提出）をベースにして、ポスターを作成します。それを教室に貼り、ポスターセッションを行います。ポスターセッションとは、ポスター作成者が聞いてくれる人たちに発表をすることです。なお、PPTは全員がオンラインで確認します。それを見て、どの人たちのポスターセッションを聞こうかと決めておくことになります。</p> <p>*外部講師（全5回）と学生の活動報告（1回）の内容・順番が変更になることもあります。外部講師については変更になることもあります。</p>						
授業形態	講義			授業方 法			
学生が達成すべき行動目標							
標準的 レベル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・社会で活躍することの意義を習得することができる</li> <li>2. 伝承されてきた技と背景的な歴史と展開を理解できる</li> <li>3. 講義内容を理解し、まとめ、提案を含むプレゼンテーションをすることができる。</li> </ol> <p>講義内容の意味を理解し、適切な表現で課題をまとめることができる。根拠（エビデンス）を示して、自らの主張を述べ、提案ができる。</p>						
理想的 レベル	<p>講義内容の意味を正確に理解し、適切な表現で課題を分かりやすくまとめることができる。また客観的な根拠（エビデンス）に基づいて論理的に主張を述べ、独創的な提案ができる。</p>						
評価方法・評価割合							
	評価方法	評価割合（数値）				備考	
	試験						
	小テスト						
	レポート	32%					
	発表（口頭、プレゼンテーション）	20%					
	レポート外の提出物	20%					
	その他	28%					

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	NU10603J WE10603J NT10603J EN10603J T010603J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
講義の概要について理解し、復習する。										4	
授業計画											
第1回	テーマ：オリエンテーション 本講義の目的と授業の進め方、達成の目安、評価方法等について 解説する。（林）										
第2回	テーマ：地域で育まれてきた文化(1) 小倉織とその文化（外部講師、林）										
第3回	テーマ：環境モデル都市と文化（外部講師、林）										
第4回	テーマ：地域の伝統と食文化 （外部講師、林）										
第5回	テーマ：1. 地域貢献に活躍する学生の活動報告 2. 評価方法等について（林）										
第6回	テーマ：地図づくりの歴史とこれから（外部講師、林） セッション用紙配布									*ポスターセ	
第7回	テーマ：地域で育まれてきた文化（2） 地域の食文化－「ぬかだき」を知る（外部講師、林）										
第8回	テーマ：1. プレゼンテーション（ポスターセッション）（林）										
テキスト	1. 授業前課題が出されます。30分程度は学習が必要な課題です。2. プリント等で配布する。										
参考図書・教材 ／データベース・ 雑誌等の 紹介	大学図書館の朝日新聞記事データベース聞蔵Ⅱビジュアル（大学図書館、キャンパス内の情報演習室等から閲覧可能です） 新聞・雑誌を利用します。図書館には何種類もあります。 知へのステップ 第5版 ―大学生からのスタディ・スキルズ 学習技術研究会（著）出版社：くろしお出版；第5版（2019） ポスターセッション関連： <a href="https://about.yahoo.co.jp/info/blog/20190410/postersession.html">https://about.yahoo.co.jp/info/blog/20190410/postersession.html</a> <a href="https://vipcamp.org/2016/poster.html">https://vipcamp.org/2016/poster.html</a> <a href="https://www.toyama-c.ac.jp/news/000735.html">https://www.toyama-c.ac.jp/news/000735.html</a>										
課題に対するフィ	PPTについては、個別にフィードバックをすることもあります。最終的な発表となるポスターセッションについては、4. その他（28）：3を聞いた後のレポート（A4 二枚）が学生相互のフィードバックを兼ねることにもなります。										

ードバックの方法	
学生へのメッセージ・コメント	<p>初回の授業（オリエンテーション）で講義全体の概要を説明する。関連する文献を読み、予備知識を得ておく、授業の内容を深めることができる。初年次ゼミナーⅠ、Ⅱ等が理解できている。</p> <p>下記中の「4. その他（28）：3を聞いた後のレポート」は感想文ではありません。自分の主張を支える信頼できる根拠（エビデンス）が必要です。</p> <p>日頃から新聞、雑誌等を読み、ニュースを見て、世の中でどのようなことがおきているかを知ることが大切です。図書館を活用しましょう。</p> <p>社会にはいろいろなことがあることを知るの、紙の新聞です。いろいろなことが社会にはあることが新聞を広げることで、わかります。「4. その他」では印刷物の参考文献を少なくとも一つは使います。</p> <p>記</p> <p>提出物：1. レポート（32）毎回の最後に集める出席票かコメント用紙。8回。*出席票が出席確認だけの場合は評価対象外。 2. レポート外の提出物（20）：PPT（オンライン提出、3. 発表（口頭、プレゼンテーション）（20）：ポスターセッション、 4. その他（28）：3を聞いた後のレポート（A4 二枚）書式は指定。 合計 11回。</p>